

教科等研究会（小学校特別活動部会）

令和4年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

よりよい集団や社会の形成に向けた生きて働く力を育てる特別活動の創造
～特別活動で笑顔あふれる学校に！～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6月 24日	8名	嘉島東 小学校	8月 23日	嘉島東 小学校	実技研	11月 11日	御船 中学校	浅見 慎二	1月 31日	広安 小学校	岩崎 太貴

3 研究の概要

(1) 研究の内容

①主題設定の理由

これからの子どもたちには、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、豊かな感性を持って自分と周囲の人、各々の生き方を認め合いながら、よりよい社会、よりよい人生をどのように切り開いていくかを自ら考え、実践できる力を身に付けていくことが重要となる。近年、様々な社会的・文化的背景をもつ他者と共に生活することが急速に身近になりつつある。また、実際に他者と対面する物理的空間だけでなく、インターネットなどを通じた仮想的空間での他者との関わりも増え、地域や国という境界を越えて人と人とのつながりが広がっている。この社会の変化において、児童は、多様な他者と関わり、今までに経験したことも見たこともない文化に向かって生きている。このように、人と人の関わり方も変容していく社会において、児童には自立した人間として他者とよりよく協働することができる資質・能力が求められている。そのため、これからの社会で多様な他者と関わり合って生きるためには、寛容さをもち、自己と他者を同時に尊重しながら、異なる意見や考え方をもとに新たな価値を創造的に生み出す力が求められている。

特別活動では、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事等のよりよい集団活動を通して、学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育てていく。よりよい集団活動は、自分と異なる文化、習慣、生き方を認め合う土壌や協働性、集団への所属感、連帯感を育むことにつながる。それが学級文化、学校文化を醸成し、特色ある教育活動の展開を可能とする。

今回の学習指導要領の改訂では、小学校、中学校ともに(1)の内容を重視することが示されている。そこで、研究のテーマを「よりよい集団や社会の形成に向けた生きて働く力を育てる特別活動の創造」とした。合意形成を行いながらよりよい方法で集団決定していく学級活動(1)の内容は、よりよい集団や社会の形成をしていく上で欠かせないものであり、研究テーマは今回の改訂の内容に沿うものといえる。よって、学級活動(1)の実践を中心にして、互いのよさや可能性を發揮し、生かし、伸ばし合う「よりよい集団」を目指して研究を進めることとした。

②サブテーマについて

新型コロナウイルス感染症の流行により、現在、当たり前に行っていた集団活動の多くが制限をされている状況である。さらに、教師の働き方改革を推進するために行事の精選も必要とされている。このような情勢を受けて行事や集団活動が縮小されている昨今だが、一方で、その価値、必要性を強く実感する機会となったのではないだろうか。文部科学省の調査によると、令和3年度の不登校児童生徒数は過去最多となっている。学校から、「楽しい」「わくわくする」という魅力が失われつつあるのかもしれない。

そこで、児童が自ら計画実践し、学級、学校をよりよくしていこう、楽しくしていこうという集団活動を行う特別活動で、もう一度、笑顔あふれる学校を創造していきたい、集団活動を通して、約束やきまりなどを守ることの大切さ、みんなと一緒に活動する楽しさ、他者に対して行ってよいことや悪いことを自覚することなどを学びながら、互いに信頼し支え合い、楽しく豊かな学級や学校の生活づくりを自ら作り出す児童を育成したいと考えた。

(2) 成果と課題

- 小学校と中学校、それぞれの学級活動を参観できたことで、それぞれの実態をとらえるよい機会となった。
- 「合意形成をしていくための思考を整理する黒板の可視化」という明確な視点を持って授業研究を行ったことで、焦点化された討議が実現し、学びの多い研究会となった。
- 研究授業を通して、児童にとってわくわくするような議題選定の必要性について、改めて認識を深めることができた。また、参加者それぞれの実践を出し合うことで、これからの教育活動につながる協議ができた。
- 学級会の中で発表や発言を苦手とする児童が、どのような形にすると話し合いに参加できるのか、研究を続ける必要がある。協議の中では、発表や発言に限らず、様々な形で自分の意見を表現できる機会と方法を与えるといいのではないかと、という意見が出た。
- 話し合い活動における効果的な思考ツールの活用の在り方について、さらに研究を重ねる必要がある。
- 時間内に集団決定できるような事前準備と話し合いの進め方について、さらに研究を重ねる必要がある。

4 実践事例

(1) 授業の概要

題材の目標	(1) 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。 (2) 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 (3) 生活上の諸問題の解決や協働して実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。
題材終了時の児童の姿	学級会の話し合いで決まったことをもとに、みんなで協力し、自分の役割を堂々と果たしたり、2年生に自分たちのやってきたことを積極的に紹介したり、2年生の行動に反応を返したりできる児童。
題材を通した学習課題	よりよいクラスを目指して、みんなのアウトプットがよりよくなるように「3年生で学んだことを2年生に紹介しよう」
働かせる見方・考え方	よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする事。
児童の実態	(資質・能力に関して) 学級をよりよくするために、自分の考えを発言したり、友達の考えを聞いたりすることができている児童が多い。一方で、発言に対する理由を明確にして話したり、友達の考えに関連させて発言したりできる児童は学級の三分の二程度にどまっている。活動の工夫について思考することも苦手な児童が多いので、事前に学級会で話し合う内容を掲示して見通しを持たせたり、自分の考えを明確にしたりする取り組みを行う必要がある。また、必要に応じて教師が介入し、理由の整合性や発言の仕方などを示していくような配慮も行っていく。 (学びに関して) 学級会が好きであり、みんなで話し合いをして意見がまとまっていくことに喜びを感じている児童が多い。一方で、「私は〇〇が良い(私がやりたいから)」という自分の考えに固執し、「何のために行うのか」や「みんなにとってどれがいいのか」が抜け落ちた発言になることもある。提案理由を明確にし、何のために話し合いを行うのかを意識させるためにキーワード掲示したり、自分の発言を振り返ったりする返しの発問などを考えておく必要がある。話し合いの進め方としては、学級全体で共有化できているところもあるが、全体的な話し合いの進め方や折り合いをつける際の技能面、少数意見の扱い方等を、計画委員会を中心に丁寧に吟味しながら確認していく必要もある。
指導上の留意点	○事前に児童の考えを集めておき、それらを計画委員会で分類・整理したものを教室内に掲示し、子どもたちの話し合いに対する見通しを持たせておく。 ○前回までの学級会での良かった点や課題だった点をタブレット端末で各自が振り返り、それぞれの学級会でのめあてを持たせた上で話し合い活動や実践へ取り組めるようにする。 ○話し合い活動では「出し合う」までは、事前に進めて置き、「くらべる」ところから入り、合意形成に向けて十分に時間が確保できるようにする。そのために、計画委員

	<p>会を中心に時間のマネジメントや練習を行っておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○くらべる時間では質問に時間がかかることが予想されるので、答えられない場合は「分からない」「そこまでは考えていない」と答えても良いということを事前に指導しておく。 ○話し合うこと(1)の「何を紹介するか」について、合意形成が図れるよう、賛成・反対ではなく「より提案理由を達成するのにふさわしいのはどれか」という視点で話し合いを進めることができるように、適宜、教師も介入して助言していく。 ○「私は」を主語に話させ、自分の立場を明確にした上で発言することを徹底する。 ○学級会での話し合いの進め方や、意見の出し方、出された意見に対して自分がどのように考えているかをはっきりさせる姿を目指す。そのために、友達考えに反応し、つなげて考えているような児童の発言を積極的に取り上げていく。 ○今後の話し合い活動を充実させるためにも、実践と振り返りを大切にしていく。
授業者自評	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の話し合い活動では質問がたくさん出るが、研究授業ということで緊張していたのか、質問があまり出なかった。ただ、普段発言できない児童が積極的に発言していたので、それは良かったと感じる。 ・合意形成をしていく際、一つの内容について意見を出し合い深めていくほうが話しやすいのか、まずみんなの意見を出した上で比較しながら話し合っていたほうがいいのか、どちらか迷っている。今回は前者の方法をとって行ったので、意見がほしい。 ・時間内にすべての内容について集団決定できなかった。時間内に終わるためには、どこに改善の余地があるのかを知りたい。
協議より	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の話し合いだけでなく、日々の学校生活の中で、相手に分かりやすく話そうとする意識が培われていることが分かる授業であった。 ・友達の意見にしっかりと耳を傾け、「なるほど。」「たしかに。」などの自然なつぶやきや返しができる児童が多く、話し合いができる素地がしっかりとあった。 ・適切な教師の介入があり、話し合いの視点がずれることなく進められた。 ・小学校での話し合い活動を中学校でも続けていきたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合意形成の方法については、児童の発達段階や実態に合わせて様々な方法があってもよい。また、集団決定していく際も、3年生という発達段階から考えて、教師がリードしていてもよいのではないかな。 ・今回の話し合い活動は時間内に集団決定できなかった。その要因として、集団決定していくための視点のずれがあった。全員が同じイメージを持って参加できるように、また、話し合いが焦点化されるように、議題や提案理由をより具体的にするとよい。 ・何についての話し合いをしているのかが明確に分かるように、話し合っている内容の項目に矢印をつけるなど、視覚的な工夫があるとよい。 ・全員参加できるように、発表以外の意思表示ができるよう工夫するとよい。例えば、名前カードを貼る、小グループで話し合う場面を増やす、ハンドサインで表現するなどが考えられる。
<p>まとめ 清和中学校 梶原正臣 校長先生</p> <p>嘉島東小学校 岩下正尊 校長先生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい話し合い活動だった。合意形成をする際、提案理由だけでなく学級目標に立ち返るという視点も大切にしてほしい。 ・振り返りをさせる際、「今日の話し合い活動がどうだったのか」という視点で、話し合い自体を振り返らせることで、さらにより話し合い活動へつながる。 <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい授業だった。わくわくするような議題にすることで、より活発になったのではないかと想像できる。これまでされた7つの議題には、たくさんわくわくするものがある。児童にとって話し合いたくなるような議題の選定は大切。 ・「アウトプットする力を伸ばしたい」という学級の課題が、「2年生に紹介しよう」という議題へつながらなかった児童がいたのではないかな。それでも、これだけの話し合いができたことが素晴らしいと感じた。 ・今回の討議の柱の3つは、全てできていた。とても貴重な提案であった。次年度の県大会につなげていきたい。

4 本時の学習

(1) 目標 「3年生で学んだことを2年生にしようかいしよう」に向けて、提案理由に沿いながら、よりふさわしい内容は何かを考え、折り合いをつけながら話し合うことができる。

第7回 3年1組 学級会 計画				
議題	3年生で学んだことを2年生にしようかいしよう			
提案理由	3年1組のみんなは、1学期よりもアウトプットが多くなってきている。けれど、自分から立ってアウトプットしたり、反応をかえしたりするのがまだまだかんぺきではない。だから、3年生で学んでいることを2年生にしようかいすることで、自分たちのアウトプット（伝える、反応する、行動する）の力も伸びるし、2年生も3年生でやる内容が分かると思ったから。			
話し合いのめあて	○ 一人一人が自分の考えを「私は」で伝えることができる。 ○ 3年1組のアウトプット（伝える力、反応する力、行動する力）が伸びるような内容を話し合っていて決めることができる。			
決まっていること	・教室と体育館を使える。 ・紹介する内容は全部で4つ。 ・2月13日（月）～17日（金）の昼休みの20分で行う。 ・紹介するときは1グループ（4人～5人）で協力して行う。			
過程	学習活動	時間	気をつけること	指導上の留意点と評価
出し合う	1 はじめの言葉 2 役割紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 めあての確認 7 先生の話	5分	・一人ずつ役割と名前を紹介する。 ・司会者の合図で、全員で提案理由を言う。 ・司会者の合図で、全員でめあてを言う。	○司会グループに自分のめあてが言えるように事前に指導をする。 ○提案者の思いや願い、学級全員の問題であることを確認する。 ○教師の話で提案理由の補足をし、話し合いの目的を確認する。
	8 話し合い (話し合うこと) 2年生に何を紹介するか。 ・「プレスト」を書いた人に質問です。どんなことをするのですか。 ・81マス計算にした人に質問です。なぜ、81マス計算がいいと思ったのですか。 ・私は理科の実験がいいと思います。やり方をを説明することで、伝える力が伸びると思ったからです。 ・〇〇さんが言ったことに付け加えて、プレストと分類整理は合体させた方がいいと思います。セットでやることが多いし、そちらの方が1つだけでやるより、分かりやすいと思ったからです	35分	◇話し合うことは、「2年生に何を紹介するか」です。出されている考えに質問がある人はいませんか。 ・意見は短冊を用意し、黒板記録係は事前に分類・整理して掲示しておく。 ・めあてや提案理由に沿っているか気をつける。 ◇どの考えが良いと思うか自分の考えを出してください。 ◇今、～についての考えが出ています。この意見について、みんなはどう思いますか？ ◇いいなという意見が多いので〇〇は決定します。 ◇～が心配という意見が出ています。みんなはどう思いますか？	○話し合いの流れを考えながら、司会グループと一緒に進行をする。 ○意見を出す際は、理由が大切であることを意識させる。 ○意見が出にくい場合は司会者グループに様々な呼びかけなどをしてもらう。 ○意見の発言に対する反応を示させることで、話し合いへの参加意識を高めさせる。 ○黒板の意見の板書は色分けして行う。 ○友だちの意見のよさに納得したら自分の意見を変更してもよいことを伝え折り合いをつけながら決定していく。 ○話し合いが、内容や提案理由から逸脱した場合は、司会者グループや教師から直接的な投げかけを行う。
まとめる	※時間に余裕ができた場合は、役割分担や決まった内容をよりよくする工夫を考える時間を設定する。		【期待される学びの姿】 理由をはっきりと伝え、めあてや提案理由に沿って意見を出し合い、折り合いをつけて紹介する内容を考えている。	【具体の評価規準】思① 友だちの意見をよく聞き、めあてや提案理由に沿った意見を出して、折り合いをつけて話し合っている。 (方法：観察・学級会ノート)
振り返り	9 決まったことの発表 10 振り返り 11 先生の話 12 おわりの言葉	5分	・わかりやすくまとめて発表する。 ・めあてに対する振り返りを行う。 ・時間があれば、振り返りを2～3人に発表してもらう。	○前回までの話し合いと比較した話し合いの仕方や態度、発言内容について助言・称賛する。 【到達していない児童への手立て】 ※学級会ノートに書いてある意見を引き出し、自分の意見をみんなに伝えるようながす。

